

日時：令和6年7月4日(木) 18時30分から20時15分まで

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

○会議録の確認について

○部活動指導員について

- ・部活動指導員の希望状況と募集チラシについての説明。

【主な意見等】

- ・今後は教員の働き方等の変化もあり、指導員の確保は課題となると想定される。
- ・部活動指導員配置希望調査で、配置を希望しない部活動がいくつかあるのは、指導員が充足されたり、部活動がなくなったりと、様々な理由が想定される。

○区立中学校の休日における部活動の実施及び部活動指導員の配置の状況について

- ・部活動状況調査及び配置状況調査の結果から、各校の休日部活動の活動状況及び指導員の配置希望についての説明。

【主な意見等】

- ・指導員の配置希望があっても配置できていない部活動もある。指導員を確保するためにも募集の仕方を工夫する必要がある。
- ・地域の方は多方面で活躍しているため、様々な人脈を持っている。そうしたネットワークを活用して、指導員の周知や募集をしていけば、効果的な募集ができるのではないかと。
- ・教員が部活動指導を行う場合は兼業とし、指導員として報酬をもらえるのであれば、人手を見つけられるかもしれない。
- ・今後、部活動は学校教育の一環ではなく社会教育の一環として移行していくと言われている。これからは、学校や教育委員会だけでなく、地域人材を活用し、文京区全体の取り組みとして行っていく必要がある。
- ・スポーツ団体や社会教育関係団体等に指導員募集のチラシを配布し、周知を図ることはできる。ただ、こうした団体も高齢化が進み、自分たちの活動の担い手が不足している状況である。部活動を指導していくことは、責任も伴い、片手間ではできないところがあるため、部活動指導となると難しい部分もある。
- ・持続可能な部活動を実施していくためには、指導者の育成にも力を入れる必要がある。
- ・文京区には企業や大学が多く存在するため、こうした資源を活用していきたいところだが、毎週末、部活動の指導にあたっていただけるか、また場所の確保等、課題がある。
- ・文京区の実情に沿ったかたちで、今後の部活動の実施主体についても精査し、考えていく必要がある。

○地域連携・地域移行の全国の事例

- ・「地域連携・地域移行の類型」の利点と課題・問題点について説明
- ・「土日祝のみ地域移行」の事例について説明

## ○区内中学校部活動の紹介

- ・第十中学校の卓球部について、週末の練習は地域の方と一緒に練習を行っている。
- ・第一中学校の科学部について、月1回程度、お茶の水女子大学の研究員に協力いただき、活動している。

### 【主な意見等】

- ・部活動の地域移行がどのような形態になったとしても、まずは、子どもたちの活動機会を確保すること、そして地域の方にしっかりと説明して理解していただく必要がある。
- ・区内の大学や地域のスポーツ団体等、うまく組み合わせながら実施していくことが必要である。
- ・第十中の例をみると、学校を開放し、練習に参加しながら地域の方が子どもに教えるというかたちは、PTAのスポーツクラブ等で実現可能性があるのではないか。
- ・初めから毎週末全て部活動指導にあたっていただくのはハードルが高いため、まずは月1回程度からなど、できるところからスタートしていくのがよいのではないか。
- ・ある程度一定の目途を持って進めていくのが大事。地域からこういうことならできると声が上がったところから進めていき、そのニーズにあった部活動に当てはめていく。できるところから、文京区の子どもたちに合うように、誘導して進めていけるとよい。
- ・種目によって、地域の資源も様々であるため、うまく組み合わせながら、地域の実情に沿ったかたちで考えていく必要がある。
- ・子どもたちのことを考えると、部活動は中学校3年間持続可能な活動である必要がある。それを考えるとある程度組織的にしっかりとしたところが介在しないとなかなか難しいのではないか。
- ・子どもたちの活動がずっと続けられる環境を整えてあげるということ、持続可能な部活動としてあり続けることが大事であるので、そうした観点でも考えていく必要がある。

## ○その他

- ・次回開催日程の確認